

|     | 重点目標                        | 具 体 策                                                                           | 自己評価 | 実施状況及び今後の対応                                                                                                                                                                   |
|-----|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| I   | 危機管理及び健康・安全に対する意識の高揚を図る。    | ① 危機管理マニュアル等の検証・見直し<br>② 健康・食生活等に関する生徒への情報提供の拡充<br>③ 帰宅時間・学習開始時刻・就寝時刻を早める働きかけ   | B    | 危機管理マニュアルについては AED を含む心肺蘇生法の内容を刷新し、また、AED 講習会を各運動部から参加者を募り実施するなど、危機意識を向上させた。感染症対応においては校内放送による感染防止意識の啓発を実施した。年4回の個人面談週間をとおして、時間管理を意識させた。今年度の反省を踏まえ、より安全な学校づくりに努めていく。           |
| II  | 学習指導、進路指導、読書指導における実践化を推進する。 | ① 各教科における課題解決型授業の実践<br>② 進路指導・キャリア教育における啓発的経験の機会の拡充<br>③ 読書活動をより活発にするための読書指導の改善 | B    | コロナ禍において未実施となった進路行事があったが、ウェブ開催による大学見学や講義視聴を推奨することにより、進路意識を高めることができた。また、ビブリオバトルなど読書に対する啓発活動を活発に行い、県大会では2年連続決勝に進むことができた。新教育課程に応じた進路行事等の見直しを行い、学習意欲に結びつく具体策を検討していく。              |
| III | 心の教育に係る指導の効果的な体制を図る。        | ① いじめ対策委員会の設置と機能的な運営<br>② 生徒理解とスクールカウンセラーの活用<br>③ ボランティア活動の充実                   | B    | いじめアンケート等を複数回実施し、状況把握と早期発見に努めた。教育相談係を中心に「出欠調べ」を活用して、全教職員で情報共有し生徒の支援を行った。スクールカウンセラーとの連携体制により継続して生徒支援を行うことができた。ボランティア活動は、昨年度と同様にコロナ禍により、地域の受け入れ態勢が整わないケースも多く、引き続き、新しい方策を検討していく。 |
| IV  | 公開と情報発信による開かれた学校作りを推進する。    | ① 教員による中学校訪問の実施<br>② 学校ホームページ等による情報発信の充実<br>③ 一日体験学習の充実                         | B    | 中学校訪問やホームページ等をとおして、中学生や保護者、地域の方々に本校の魅力を発信することができた。一日体験学習と授業公開は、感染症対策を行って、実施することができた。今年度の感染防止対策を高めつつ、今後も更なる充実に向けて取り組みを検討していく。                                                  |